

マグネシウムで バイオリン

軽く響き良く

日本初、下松の
板金加工会社



マグネシウム合金製のバイオリンを演奏する三好さん

アルミをハンマーでたたいて曲面をつくり出す「打ち出し板金技能」で、新幹線の先頭部分を作っている下松市の板金加工会社「山下工業所」(山下竜登社長)が、マグネシウム合金によるバイオリンを製作、26日公開した。同社の技術力をPRするための「日本初の試み」で、11月4日から東京ビッグサイト(東京都)で開かれる中小企業総合展で展示される。

同社は、これまでアルミ製バイオリンも作っているが、重さが木製の2倍ほどあり、演奏には不向きだった。このため、アルミの3分の2の比重のマグネシウム合金を使い軽量化を図ろうと、7月に製作に着手。ハンマーで胴体の曲線などを作り出し、板の厚さもアルミの1・6倍に対し1ミリにまで薄くするなどし、木製と変わらない539分のバイオリンを完成させた。

この日、同社で演奏を披露した周南市のバイオリン奏者、三好真樹子さん(29)は「アルミのバイオリンよりも軽くて、疲れない。音の響きも良く、木製とは違う新しい楽器のよう」と話した。

山下社長は「さらに軽量化させ、マグネシウム合金のピアノとチェロも作り、弦楽四重奏を実現したい」と話していた。